

能登半島地震編 3

Hayasaka Report 2025.2

都政報告

東京都議会議員

早坂よしひろレポート

発行
都議会
自民党

東京でもこうした問題が起こり得ることを
考えておく必要があります。

能登半島地震発災から1年が経過した。そこで被災地の現況と、今後の東京の対策。そして現在議論されている防災庁の方向性についてレポートする。



令和7年1月2日 石川県輪島市「五島屋ビル」

のであるか。そして、そうした現場で被災者の皆さんに、的確にアドバイスをなされる早坂さんの行動力と内容に、深く学ばせて頂きました。

早坂そして発災からちょうど1年後の今年の元日にも、同じメンバーで能登の復興確認に行き、あの時初めてお会いした方々に再びお会いして、その後のお話を伺うことが出来ました。

解体業者や重機の数、そのための宿泊施設、がれきを置いておく場所、事務手続きを行う行政職員の数など、枚挙に暇がありません。東京でもこうした問題が起こり得ることを考えておく必要があります。

玉田 宿泊施設といえば、今年の元日に私たちが泊ったのは七尾駅前のホテルでした。全153室のこのホテルで空きがあるのは、大晦日と三日日位、あとはほぼ満室とのことでした。あとはほぼ満室とのことでした。建設労働者の皆さんで一杯になっているからです。しかし、ともと過疎だったところに、この地震で、益々人口流出。七尾駅前には真っ暗で、人通りは皆無でした。いつか建設労働者の皆さんがこの地を引き上げたら、まちは一体どうなるのだろうかと思わずにはいられません。災害関連死も増えて続けています。

(株)防災士研修センター 代表取締役 / (一社)令和防災研究所エグゼクティブフェロー

玉田太郎 × 早坂よしひろ

早坂 能登半島地震発生から1年が経過しました。早坂さんからお電話を頂き、仲間の防災士も加わって、すぐに被災地に支援活動に向かったことは、防災士育成を担う私にとって、得難い経験となりました。支援が全く届いていない時点での混乱が、どのようなも

玉田 1年前の発災直後に早坂さんからお電話を頂き、仲間の防災士も加わって、すぐに被災地に支援活動に向かったことは、防災士育成を担う私にとって、得難い経験となりました。支援が全く届いていない時点での混乱が、どのようなも

早坂 公費解体の進捗を阻んでいる要因はいくつもあります。



〈裏面〉

被災者の状態は時間と共に変わりますから、一度で終わりとはいえません。

早坂 災害の一撃からはいのちを取り留めたものの、その後の避難生活で亡くなる災害関連死は（令和7年1月現在）288人。直接死の228人を上回りました。お口の健康が全身の健康に大きく影響するとは、良く知られています。劣悪な環境の避難生活で体調を崩さないためには、歯をしっかりと磨くことが必要だと、東京都歯科医師会は訴えています。災害関連死を予防する意味で重要な取組です。

玉田 災害時に体調を崩すと例えば、トイレですね。食べ物は一昨日や2日は我慢出来るでしょうが、トイレは1時間も我慢することは出来ません。トイレが使えさえすれば、劣悪な環境が見込まれる避難所（学校の体育館）に避難しなくて済みます。ご家庭の洋式トイレに被せて使う災害用トイレは、一枚100円位で買うことが出来ます。ひとり1日7回で1週間分、2人家族なら今すぐ100枚（つまり1万円）で

早坂 総理が防災に目を向けて下さることはもちろん歓迎ですが、率直に言って、石破さんの方向性には大きな危惧を覚えています。

玉田 どんなことですか。
早坂 石破さんは事ある度に「諸外国では発災から数時間のうちに、キッチンカーがやってくる。困っている被災者にこそ、温かで美味しい食事を提供するべきだ」と発言しています。しかし様々な防災対策の中で、キッチンカーより遥かに重要な対策がいくつもあつて、防犯とはいのちを守ること。

玉田 早坂さん、そこまでおっしゃって大丈夫ですか（笑）。省庁や自治体の縦割りが解決されないまま、もうひとつ縦



令和7年1月2日 石川県七尾市亀山町



令和7年1月2日 石川県輪島市「輪島朝市跡」

割りの防災庁が出来たら、事態がより厄介になるだけかもしれない。昨年台湾花蓮地震では、迅速で充実した避難所設置が話題となりました。私は現地で見えてきて気が付いたことがあります。それは被害の程度が小さかったから可能だった、ということ。そうした実態をどのマスコミも取り上げていませんが、私は断言できます。

早坂 私が都議会で提言しているのが「災害ケースマネジメント」です。被災者に何が困っているかを尋ねても「いえ、大丈夫です」と答える人が案外多いのは、玉田さんもよくご存知でしょう。傍から見れば困りごとだらけなのに。そこで被災者の訴えでなく、被災者の状態を客観的に見るといのが、災害ケースマネジメントです。行政書士、司法書士、社会福祉士、税理士、建築士、宅建士といった職能の専門家が被災者の状況を見て、それぞれの分野で「こういう支援策がある」と寄つてたかつて提案するのです。
玉田 そのようにして被災者に寄り添うスタイルは、まさにミスター防災の真骨頂ですね。

被災者の状態は時間と共に変わりますから、災害ケースマネジメントは一度で終わりとはいえません。こういう本質的な支援策こそ大いに進めてほしいです。キッチンカーでなくて（笑）。
早坂 本日はありがとうございました。

プロフィール

- 1968年 荻窪の東京衛生病院生まれ（56歳）
 - 西田幼・西田小・松浜中卒業、大検合格
 - 立教大学法学部（北岡伸一ゼミ）卒業
 - 働きながら明治大学公共政策大学院（青山伸ゼミ）修了
 - 防災情報機構 NPO 法人事務局次長として全国講演
 - 2005年 東京都議会議員に初当選（現在5期目）
 - 都議会では予算特別委員長など歴任
 - 明治大学客員研究員
- <災害調査>
米国 ハリケーンカトリーナ、中国 四川大地震 他、国内外多数。東日本大震災では発災当日に被災地入りし、支援活動を行う。



早坂よしひろ
ミスター防災



ホームページ

皆さまのご意見をお寄せ下さい。



バックナンバーはホームページをご覧ください。

能登半島
地震 編1



能登半島
地震 編2



オリパラのレガシー 編
AED(突然死救命) 編
男の子育て 編
ロボット手術 編
首都直下地震 編
オリンピック 編
被災地の復興 編
緩和医療 編
高齢者の住まい 編

ジャパントクシー 編
デジタル化 編
お口と健康寿命 編
災害関連死 編
新型コロナウイルス 編
液体ミルク 編
都市型水害 編
高齢者の健康 編